

名城大学箏曲部は、薬学部がある八事キャンパスの城薬ホールに部室が設けられていることもあって、部員のほとんどは薬学生。毎週金曜日にはプロの演奏家・山本ひとみさんを講師に招いて、琴や三味線、尺八という古来からの伝統楽器を練習している。毎年、京都府立府民ホール「ALTI」で2日間にわたって開催される全国学生邦楽フェスティバルで、昨年は団体賞、一昨年は演奏賞を受賞するなど、その腕前はなかなかのものだ。日本の古典芸能に対する物珍しさや“癒し効果”と相まって、このところ若者の間でも密かに箏曲ブームが広がりつつあるという。

名城大学箏曲部は、箏曲同好会としての活動が長く、箏曲部に昇格したのは実は昨年のこと。部員の強い昇格希望がやっと叶った。山本さんが同部の指導に当たるようになったのは11年前から。1997年に八事キャンパスの城薬ホールにきれいな和室の部室が完成したのをきっかけに、「プロの演奏家を講師に招いてレッスンしたい」との機運が高まり、指導者として山本さんに白羽の矢が立った。

それ以降、見よう見まねのレッスンは、本格的なものへとレベルアップ。今や全国学生邦楽フェスティバルで、数々の賞に輝いている。フェスティバルには毎年、全国各地から40校以上、約250人が参加する。演奏者は2、3回生のみと規定されている。参加大学には東京大学、京都大学をはじめとする国立大学から、数々の有名私立大学が名を連ねているが、薬系大学といえば、名城大学と大阪薬科大学の2校のみだ。

部員に箏曲部入会の動機を尋ねると「新入生のクラブ勧誘の時に、先輩から『小演奏会をするので部室に来てね』と言われ、琴や三味線の演奏を聞き、ぜひ自分でやってみたいと思った」と異口同音に答える。

練習は、毎週1回金曜日午後4時30分からだが、練習時間は時期によってまちまち。ただ、この2月から2、3回生の部員は、演奏曲目の「八千代獅子」を中心に、毎週3時間のレッスンを続けている。今年8月8、9日に開かれる全国学生邦楽フェスティバルに備えて、準備に余念がない。

箏曲部の中心は2回生。「薬学部は勉学に忙しいので、歴代、クラブの中心は2回生が担っている」と、山本さん。ちなみに、薬学教育6年制になったが、この体制には変わりがない。

今年も2回生がリーダーだ。部長は岡田祐美子さん、副部長は塚本有美子さん、村上恵梨さんが会計を務める。部長は部活でのあい



大学祭での演奏風景



プロを講師に本格レッスン



さつや演奏する施設の予約、連絡事項の回覧、副部長は他大学への演奏会のお知らせやお礼状の作成、部室の備品整理、会計は部費管理とお稽古代（1人200円）の集金といった役割分担になっている。

箏曲部の備品は、13絃琴が15面、17絃琴が3面、三味線は3台。これに対し部員は現在約30人。

部室は8畳の和室のふすまを取っ払って廊下まで活用し、何とか10畳のスペースを確保。それでも部屋は狭い。それに加え「全員が集まると楽器が足りない」と岡田さんはこぼす。そのため、学年別に練習を行うことが多いという。しかし、大学祭前のリハーサルや本番

の時は、さすがに業者から琴や三味線をレンタルする。その時ばかりは、全員で演奏できる「まさに至福の時」だという。

とはいえ「絃を押して音を変える押し手を、全員でうまく揃えるのは一苦労」（村上さん）。それに、歌を歌いながら琴を演奏する江戸時代からのスタイルも結構難しいという。男性部員が少ないのも悩みの種で、新入生勧誘では男性部員が率先して男性の入部を呼びかけている。

箏曲部での活動を通じて塚本さんは「みんなで揃って演奏できた時は非常に充実感を覚え、ストレス解消にもなります。他の薬科大学で、箏曲部を創設してほしいと思います」と話す。指導者の山本さんも「みんな真剣に伝統楽器に取り組んでいます。部の雰囲気も穏やかで明るい。私も大学の部活ならではの醍醐味を共有させてもらい、毎回ワクワクして指導しています」と話している。

僕たちの青春
薬大のクラブ活動

常にいきいき。
どこでもハツラツ。
マツモトキヨシは、
「人間力」で動いています。



← 新卒薬学専用
モバイル版就職サイト

薬剤師(新卒・中途)募集中!

株式会社マツモトキヨシ
人事部採用課

〒270-8501 千葉県松戸市新松戸東9-1

学生専用フリーダイヤル 0120-047-300

<http://www.r-matsukiyo.com/>

Matsumoto KiYoshi

